

演劇にできることを語り合う

～レゴ@シリアスプレイの対話の方法で～

無料



日時 2024年2月11日(日)

18:30～21:30

レゴ@シリアスプレイ 18:30～21:00(2時間30分)
事後交流会 21:00～21:30(30分)

場所 筑紫野市文化会館 多目的ホール

筑紫野市上古賀 1-5-1



対象 演劇に関心がある 高校生と子どもに関わる大人

定員 30名先着順 ※県外からの参加も大歓迎

参加費 無料

お申込み



講師 青柳達也

演劇家として地域に根差した演劇公演やワークショップを実践。
2010年にレゴ・ブロックを活用した話し合いの手法であるレゴ・
シリアスプレイ®の公認ファシリテーター資格を取得。

演劇人や演劇に関心がある人が集まって、レゴ@シリアスプレイの話し合いの方法で、「演劇にできること」をテーマに対話し、緩やかなつながりを持ちます。

レゴ@シリアスプレイはレゴブロックを用い、個人の価値観やビジョンなど、頭のなかで何となく意識しているモヤモヤとした部分を可視化することで、コミュニケーション能力や問題解決能力をアップするワークショップです。

演劇家でレゴ@シリアスプレイの熟達した講師、青柳達也さんを招いて、ワークショップを行います。

交流会では、青柳達也さんが佐賀城で11年間毎週主催する寸劇「幕末・維新 佐賀八賢人おもてなし隊」の取り組みを紹介。その後意見交流会を行います。

主催 NPO 法人えんげき広場 cue

お申込み QR コード

共催 (公財)筑紫野市文化振興財団 筑紫野市文化会館



講師紹介 ファシリテーター 青柳 達也



佐賀県佐賀市出身。アラスカ大学アンカレッジ校、タウソン大学院（メリーランド州）卒。セーラム州立大学演劇・スピーチコミュニケーション学科（マサチューセッツ州）にて身体表現専門の助教授を経て、2008年に日本に帰国。演劇家として地域に根差した演劇公演やワークショップを実践している。2010年にレゴ・ブロックを活用した話し合いの手法であるレゴ・シリアスプレイ®の公認ファシリテーター資格を取得。佐賀女子短期大学准教授として、英語やコミュニケーションの科目を担当。



幕末・維新 佐賀の八賢人おもてなし隊
歴史寸劇★毎週日曜日★一日五回★無料



えんげき広場 cue は 学校や地域で演劇ワークショップを行う NPO 法人です

私たちの取り組む課題

今、子どものそだちの現状は大変困難になっています。少子化にもかかわらず増え続ける不登校、子どもの自殺、いじめ、子どもの貧困、また学力格差、文化資本の格差の広がり、コミュニケーション能力の問題もしばしば囁かれます。

その社会的背景には、地域社会において子どもが育つ環境が変化していること、加えて少子化、核家族化が進行し、子ども同士が集団で遊びに熱中し、時には葛藤しながらお互いに影響し合って活動する機会が減少し、様々な体験の機会が失われていることがあげられます。そして私たちは、明治以来 150 年続く学校制度を緩やかに変えていくという課題に直面しています。

現代社会で失われつつある子どもの「ごっこあそび」は、子どもの心を開放し癒す効果があります。「あそび」は子どもの成長に欠かせないのです。演劇ワークショップはごっこ遊びの要素も大きいのです。さらに、コロナ禍で失われた子どもたちの「友達と遊ぶ」「外食する」「旅行する」「中止や縮小した学校や地域の行事」といった多くの体験を、演じることで身体で経験し、閉じ込めた心を開放する効果もあります。

ドラマは毎回起こる

演劇ワークショップは万能ではありません。しかし、毎回いろいろなドラマがおこるのも事実です。他者との出会いが少なく固定した友達関係、あるいは先生との関係性が変わるきっかけをつくります。保健室登校や特別支援学級の子が面白いアイデアを出したり、いつも遊ばない子と気が合ったり、自己中心的な子が協力したり、自身を表現することで元気になったりするのは、友達の評価が変わる、表現することで表情が明るくなる、保健室登校だった子がクラスに入るといったことが起こっています。

特別にプログラムされた演劇ワークショップ

私たちの演劇ワークショップは、子どもたちの「コミュニケーション能力」や「非認知スキル」を向上するようにプログラムされています。子ども一人ひとりから出てくるアイデアや創造を、身体や言葉で表現し、グループで話し合って合意形成・発表することで子どもの主体性や多様性を育む環境をつくります。芸術家を派遣して、文化資本の格差を埋める取り組みでもあります。

私たちは、演劇ワークショップを全ての子どもと子どもに関わる大人に体験してほしいと願っています。

NPO 法人えんげき広場 cue ホームページ

